

室町時代すでにこの地には集落があった

馬場屋敷跡を中心に発掘

市内には七か所の遺跡地域があります。その中で、庄瀬地区の通称「馬場屋敷」馬場屋敷の塚、若宮様」の一角からは、陶磁器片などが採取されていました。

この区域一帯が、五十八年度にほ場整備の対象となっていることから、今回の試掘調査となったわけです。今年度、この試掘調査は八月、十月、十一月の三回、延べ十八日間にわたって行われ、稲刈り後は重機を使って本格的な試掘作業が進められました。明治時代の更生図を見ながら、東西三百メートル、南北一キロメートルの区域に、大小百二十四か所、延べ二千五百二十五平方メートルの穴を掘って調査されました。

室町時代の陶磁器が次々と

その結果、出土する遺物や遺構（古い建造物などの跡）は予想以上に多く、室町時代（十四〜十六

世紀）の遺物を埋蔵した貴重な遺跡地域であることがわかりました。

出土品には、室町時代末期のものと思われる珠洲焼や越前焼のすりばち、かめ、つばなどの破片が多く、柱と思われるものも出土しました。黒く腐食した大小の穴や溝も多く確認できました。これらのことから、室町時代、この地に集落があったことが立証され、しかも信濃川の主流が支流かは不明なもの、大きな河川の自然堤防上に開けた集落と思われる。

また、一般的には、城館跡や寺院跡から出土する青磁という中国の明時代（十四〜十七世紀）の陶器も採取されたことから、近世までの長い間、船泊まりの地を管理する豪族がいたことも予想されます。

稲刈り後に本調査を実施

こうしたことから、試掘範囲は北側に拡張され、今回の試掘で、この区域一帯が平場の貴重な遺跡であるとして、今年度の稲刈りを待って、ほ場整備事業と平行して本格的な発掘を計画しています。

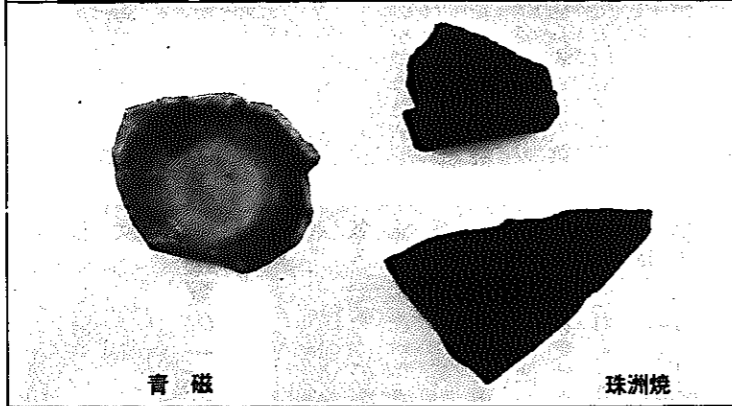
これらの調査によって、中世以前の先人の足跡を確認するとともに、信濃川の流路の変遷と、その自然堤防上の集落構成などが解明できるものと思われれます。



真夏の炎天下の中、発掘作業は黙々と続けられる



採取された遺物を鑑定する学芸員

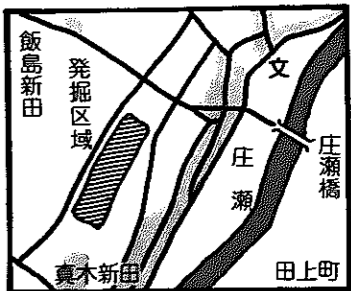


青磁

珠洲焼



田んぼに現存する中世のものと思われる四角い井戸



インタビュー



県教育庁文化行政課学芸員

田海義正さん

平場では県下有数の貴重な遺跡

中世以前、蒲原の沼地帯には人が住みつけなかったというのが定説でした。

ところが、今回のこの試掘で、室町時代にはすでにこの地に集落があったことを立証する遺構や遺物が、私たちの予想以上に多く採取確認されました。中でも、田ん

ぼに現存する中世の井戸は、貴重な遺構で、掘って出てくる井戸は多いのですが、表面に出て現存するのは珍しいものなんです。

こうしたことから平場の遺跡としては、県下有数の貴重な遺跡と言えるでしょうね。ほ場整備対象区域となっていることから、発掘をほ場整備事業とあわせて今年末に行いますが、今から楽しみです。発掘区域に当たっている地区民をはじめ、市民のみなさんの協力をお願いします。